国といえども、そこから自由で 中小国であり、またロシア、

乗り越えられるのか」今井貴子

ル化の猛威により晒されるのは アジア通貨危機など、グローバ 生

国境を超える民主主義のイノ

ーション

未来への責任

ーション

2017年 元旦



るのだ。ファシズムと世界大戦 の尊重や社会的連帯のための 限界と欠点が明白になった年と 主義のイノベーションへの一歩 訓を踏まえ、二十一世紀の民主 をめぐる二十世紀の歴史的な教 立を増幅するツールともなりう いえるだろう。民主主義は人権 戦以降で、 /ールである一方で、 憎悪と対 -6年は、第二次世界大 もっとも民主主義の

フェ)によって民主主義の空洞 ル・ギャップ』(クラウス・オッ いくような、『二重のコントロー とする政治的信頼も損なわれて た。その結果、自らの選択によっ れに棹差すようになったこと 御する主体としてではなく、こ ロールを自ら手放してしまっ て民主的な政府・統治が可能だ 「国家はグローバリズムを統 課税権と金融市場のコント

21世紀の課題先進国への挑戦 を拓けるか。 20 う年はそれ

在化させている。 義と民主主義の新たな矛盾を顕 と新自由主義の台頭は、資本主 た。しかしグローバル化の進展 の「戦後民主主義」を支えてき 車の両輪となって、世界規模で らない。資本主義と民主主義は することができたからにほかな も、それが豊かな中間層を形成 念の正当性によってというより 持され、定着したのは、その理 二十世紀後半に民主主義が支

や国内の再分配は中進国も含め

に課題だ。ギリシャ債務危機、

ない。グローバル化のマネージ

続けるのか」世界1月号) ままデモクラシーの後退を意味 であれば、中間層の没落はその バリズムの敗者』はなぜ生まれ するだろう」(吉田徹「『グロー て民主主義が支えられてきたの 化が進んでいる。中間層によっ

2016年、EU離脱のイギリ 会選挙が、ドイツでは九月に連 ローバル化をマネージすること れるのか。あるいは野放図なグ の怒りや憤りが、さらに増幅さ 挙に現れた「やせ細る中間層」 ス国民投票、アメリカ大統領選 邦議会選挙が予定されている。 ンへの糸口を手にしうるのか。 能性―民主主義のイノベーショ な構想を可能にする、政治の可 することを組み合わせる包括的 と、国内の再分配政策を再構築 に大統領選挙、六月には国民議 が、フランスでは四月から五月 これは先進国だけの課題では 三月にはオランダで総選挙

> 同じだろう。 先進国のみならず中国も本質は え脅かされることになるのは、 野放しにされれば、国内秩序さ ル化を放置したまま「99%対 はありえない。さらにグローバ 1%」といわれるような格差が

紀の課題先進国にむけた普遍的 契約をなしうるかは、二十一世 ない。資本主義と民主主義の再 中国とて「他人事」ではいられ ても「明日はわが身」であり、 諸国のみならず中所得国にとっ た再分配政策の再構築は、 脱工業化といった変化に対応し 化とともに少子高齢化、低成長、 な挑戦だ。 再分配も同様だ。グローバル

担えるかが問われている。 たちの民主主義も、その一翼を の相互連鎖を作り出せるか。私 主義のイノベーションの波、 のではない。国境を超えた民主 これは一国だけでなしうるも そ

れた20%」(「分断された社会は 不安定な75%、社会的に排除さ 権的な5%、リスク意識を高め の季節」の到来でもある。「特 憤りの噴出は、 「やせ細る中間層」の怒りや 新たな「政治

21世紀の課題先進国への挑戦 機関紙 国民協議会



第452号 「がんばろう、日本!」 国民協議会

発行所「がんばろう、日本!」

発行人 戸田政康 編集人 石津美知子

http://www.ganbarou-nippon.ne.jp

(東京事務所) 東京都千代田区九段北4-3-16 サンライン第14ビル6階 〒102-0073 TEL 03(5215)1330 FAX 03(5215)1333

(発行所) 東京都東大和市南街2-17-16 パピルス会館 〒207-0014 TEL 042(566)2950(代)

(発行所) 東京都東大和市南街2-17-16 パピルス会館 〒207-0014 TEL 042(566) 2950 (代) FAX 042(566)2949 (郵便振替>00160-9-77459 「がんばろう、日本!」国民協議会

ゆうちょ銀行 019店 当座0077459

1部 300円 半年2,000円 一年3,500円 今号の紙面

12 11 囲 8 | しむ | 15 12 会 10 面面 面 8面

憲法/宍戸常寿・東京大学教授 憲法/宍戸常寿・東京大学教授 を藤学・沖縄国際大学教授 佐藤学・沖縄国際大学教授 佐藤学・沖縄国際大学教授 を藤・北海道大学教授

明日香壽川・東北大学教授大島敦・衆院議員

世界9月号)という分断社会の 立するように見えるときにこ 安が否応なく政治化し、鋭く対 ろう。生活の利害や社会への不 異なる他者と議論(闘議)でき 生活や社会への不安を表出し、 や外国人などに仮託しない形で なかで問われているのは、移民 政治が問われる。 関係性を作り出せるかだ

うが勝ちを占めたということで は、結局『敵』をつくりだして り少し弱かったとすれば、それ スに対し、『この地域の我われ 第一』のトランプのポリティク 者たちでした。~(『アメリカ を担ったのがサンダースの支持 対抗する。アメリカで今回それ 経済によって、グローバル化に のポリティクスないしは政治的 いうことです。~そうした本来 か、それを調整し組み立てると ちがどうやったら生きていける ではなく、地域に根差した人た とは、イデオロギーということ うことだと思います。『政治化』 ない世界」 世界1月号) した言説で支持者をまとめるほ 自らの立ち位置を固める、そう スの訴求力がトランプのそれよ 住民』という/引用者)サンダー しょう」(西谷修「アメリカの 「……人間生活の政治化とい

算は は ぎ 奈が 妙対

が、グローバル化に対抗するナ 票でEU離脱派の合言葉は「コ う政治化か。イギリスの国民投 の異なる方向性がある。 ショナリズム―政治化にも二つ ントロールを取り戻せ」だった 「この地域の我われ住民」とい 「敵」をつくりだす政治化か、 「……『スコットランド独立

異を 私 至主 35

そ

遍的 世 岩 られ Q 2 **先進** 心し 長

乭 冠は 豚さ 点め 特 政治 8

「日本では開戦を、軍部の独

ある。そしてフォロワーがフォ

リストたちが『よそ者は出てい いた。~中略~二〇一四年の英 る投票権を在住外国人に渡して け』と排外しているときに、ス た』と言った。英国のナショナ ショナリズムの二種類があると 族的ナショナリズムと市民的ナ 投票は、ナショナリズムには民 コッランドでは国の命運を決め いうことをイングランドに示し

「未来への責任」を担ううえで、 私たちが向き合うべき問いとは

です」(同前)。今回はこれがで 望的な状況の自覚から始めるの 本が混乱するのは当然です。 朝日 11/25) だろう。「今の日 に気付きを与える」(宮台真司 明性に埋没した思考停止の蔓延 いさえすればよい、という「自 リカ主導の秩序に寄りかかって ことができるだろうか。 を迎えるであろうなかで、日本 「未来への責任」を担っていく に生きるわれわれはどのように トランプのアメリカは、アメ 世界が第二次大戦以来の試練

き」さえも生じない。ここを今 生まれない。当事者性が欠落し の戦争」の過程では、「絶望的 線拡大から日米開戦に至る「あ 回は越えられるか。 た無責任連鎖のなかでは「気付 た。「自明性に埋没した思考停 な状況の自覚」すらできなかっ 止の蔓延」からは、当事者性は 中国大陸での場当たり的な戦

> 違う形でアンチ・グローバリズ 国とスコットランドはまったく グ」岩波書店) みかこ「ヨーロッパ・コーリン ムを表出させた」(ブレイディ

憤りの噴出を、どのように政治 望を持っています」(シュトレー た。人々が利害を軸に集団をつ けることはできなくなりまし 彼のおかげで、問題を否定し続 化していくのか。「トランプは 度の復権。そこに私はまだ、希 いう、生々しい意味での政治制 くり、そのために進んで戦うと 問題解決にはほど遠いですが イノベーションへの挑戦だ。 「やせ細る中間層」の怒りや 朝日11/22)。民主主義の

走と考える人が多いでしょう。 ない。責任はあくまでも人間に 取り囲む状況を『空気』『雰囲気』 似しています。(責任の所在が 後処理や決定過程が75年前と酷 故も新国立競技場の建設も、事 た。東京電力福島第一原発の事 とく当事者意識が欠けていまし かかわらず、指導者層にことご 会議を経て下されました。にも する指導者はいませんでした。 戻りを難しくしたのです。政府 とは異なる選択を続け、自ら後 です」(堀田江理 任は、あくまでも人間にあるの 欠如は、自然発生しません。責 ます。しかし判断ミスや勇気の でよりよく説明することはでき 不明/引用者)~開戦の決断を 挺し戦争に歯止めをかけようと す人はいました。しかし、身を や軍部にも開戦反対をほのめか 〜実際は、要所要所で戦争回避 **開戦は多くの公式、非公式の** しかり。問題は「空気」では 朝日 12/7)

> いあう型を持たなければ、リー ダーの責任を問う作法は作れな (一億総懺悔→総無責任)。 -としての責任を互いに問

『国民が国家の行く末に十全に りぎりのところで回避されるの 関われなかった』ことを噛み締 そのような意味で12月8日は ていたのではないでしょうか。 では』との希望的観測をも抱い に与しつつ、同時に『戦争はぎ める日だと思います。 「国民の多くは対英米強硬論

藤陽子 学べるものだと思います」(加 の、これが(日米開戦に至る/ 考える癖、言い換えれば『歴史 肢は何だったか』と置き換えて ではなく、社会に溢れているみ もかゆくもない総括です。そう 引用者)3つの失敗の事例から せかけの選択肢を『本当の選択 織がない以上、実のところ痛く 現在、戦前期の軍部と同様の組 2/7に立ち会う際の作法』というも 『軍部の失敗』という総括は、 日経ビジネスオンライ

れば発効しない協定が、アメリ それを問うような態度を是非と う)事実を前提として、なぜ日 批准しなければ発効しないとい ことなく~中略~ (日米両国が けの選択肢の文句に惑わされる 割、人口8億の沃野に打ってで す選択肢が、『世界のGDP4 Pについて) 政府が私たちに示 次のように述べている。「(TP えていけばよいのです」(同前 認を急がされるのは何故なの 力の不参加にもかかわらず、承 ます。『日米両国の批准がなけ も歴史から身につけたいと思い るか』だとしても、その見せか るか、それとも国内に引きこも と問うような態度の例として、 か』という形に、問いの形を変 本政府が国会承認を急ぐのか、 加藤氏は「本当の選択肢とは」

思考停止に陥らない問いの発

16面へ続く

~憲法を論じる共通の土台をどう作るか 2月8日(水) 午後6時30分より コープイン京都 講演とディスカッション 曽我部真裕・京都大学教授、 福山哲郎・参院議員、泉健太・衆院議員、隠塚功・京都市会議員 参加費 1000円

> 1面から続く し方。それは個々人の自覚だけ でできるものではなく、人々の る。イギリスの国民投票が、ウ スではなった、でできるものではなく、人々の でできるものではなく、人々の 関係性のなかでこそ可能にな が「ポスト真実」の政治」と言われたように、怒りや憤りが政治 かに噴出されるなかでは、「事 と言われ、アメリカ大統領選挙 が「ポスト真実」はどうでもよい ものとされがちだ。ファクト ものとされがちだ。ファクト ものとされがちだ。ファクト ものとされがちだ。ファクト ものとされがちだ。ファクト ものとされがちだ。ファクト ものとされがちだ。ファクト ものとされがちだ。ファクト

ない。忖度でも同調圧力でもな 情を表出するのか、「顔の見え 思考停止に陥らない問いの発し そ、事実は説得力を持つだろう。 うところから互いに議論できる は「そういうものだ」と認め合 害の対立、意見の相違を、まず く、単なる多数決でもなく、利 そう簡単に罵倒できるものでは 話を聞いてくれる知り合いは、 りするのは簡単だが、目の前で の誰かを全否定したり罵倒した できるのか、ではないか。遠く る」関係性のなかで感情を表出 方は、そのなかで可能になるは 問題は、「敵」に仮託して感 そういう関係性のなかでこ

は何か。 「未来への責任」を担ううえ

「理念なきアメリカ、自分のことしか考えないアメリカという像は人をうろたえさせるかもう像は人をうろたえさせるかもしれませんが、その発想を持たなければ、世界はもはや未来をイメージできない。『日本の対を目立』と意気込む人もいるのでしょうが、右であれ左であれ、アメリカ的秩序に寄りかかれ、アメリカ的秩序に寄りかかのか、本格的に考えなければいけない時がきているということです」(西谷 前掲)。

「民主主義を単なる政治のや

『国体』とは、国の生き方そのものである。当座しのぎの外のものである。当座しのぎの外のものである。当座しのぎの外交的なパッチワークではなく、交的なパッチロークではなく、交的なパッチロークではなく、大きだしの権力政治がいっそうかきだしの権力政治がいっそうかまにもりだすなか(自分のことしか考えないアメリカ/引用としか考えないアメリカ/引用をしか考えないアメリカ/引用者)、右でも左でもない日本国者)、右でも左でもない日本国者)、右でも左でもない日本国者)、右でも左でもない日本国者)、右でも左でもない日本国者)、右でも左でもないできるのかどうか、いま一度人権や平和といった規範に則って国の針路を記さいました。

「あの戦争」に負けた日本は、「あの戦争」に負けた日本は、人類の多年にわたる努力の成果としての普遍的な理念に則って、国を復興しようと決意した。1948年から33年にかけて中学・高校の教科書として使われた「民主主義」(文部省)は、こう述べている。

り方だと思うのは、まちがいである。~略~すべての人間を個ある。~略~すべての人間を個人として取り扱おうとする心、そとして取り扱おうとする心、それが民主主義の根本精神である」(西田亮介・編 幻冬舎新書)。
書)。

「国境を超える民主主義のイノ
「国境を超える民主主義のイノ

